

## 社会科（地理的分野）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> <span style="font-size: 2em;">○○○○○</span> </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解できるように、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けられるように、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連について、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めるために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p>＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○分野の学習において課題（問い）を設定し、その課題（問い）の追究のための枠組みとなる多様な視点に着目させ、課題を追究したり解決したりする活動が展開できるように、どのような工夫が見られるか。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料の配置、数、種類などに、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○事例の選択、資料の取り上げ方など、学習効果を高めるために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習効果を高めるために、表記・表現（見出し、記号、用語、脚注等）に、どのような工夫が見られるか。</li> </ul>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい社会 地理</h1>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           2 東 書         </div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開き 1 ページの内容が、「学習課題」から本文、整理・まとめ「チェック&amp;トライ」の流れで構造化されている。また、単元の最後に「基礎・基本のまとめ」を設けており、基本的な知識の定着が図れるように工夫されている。</li> <li>○地図の見方や読み取り方、統計資料の作成等地理的技能を身に付けるために「スキル・アップ」が設定されており、学習に必要な技能の定着を図れるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の導入部に、その単元の学習過程で働かせる「見方・考え方」を明示したコーナーを設けており、学習を深める中で、言語活動の充実が図れるように工夫されている。</li> <li>○地理的事象や地域的特色について、多彩な思考ツールを用いて整理することにより、主体的に思考・判断した内容を適切に表現する力を身に付けられるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の諸地域の学習の導入や、「地域の在り方」の学習で「持続可能な開発目標」を取り上げ、現代的な諸課題を意識・理解しながら、学習をすすめられるように工夫されている。</li> <li>○「地域の在り方」の学習では、学習してきたことを振り返りながら、地域の課題や変容に注目したり、地域の将来像を提案したりする活動を充実させ、主体的に社会の形成に参画する資質や能力を養えるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の導入部で、単元全体を貫く「探究課題」を立て、「まとめの活動」でその解決を補助する「探究のステップ」に取り組むことで、課題解決的な学習ができるように工夫されている。</li> <li>○小集団での参加型学習を行う「みんなでチャレンジ」や「導入の活動」「まとめの活動」等を設け、対話的な活動を実践することにより深い学びができるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「地理にアクセス」や「インタビューコラム」「もっと地理」を掲載し、生徒の興味・関心が高まるように工夫されている。</li> <li>○ICT機器を活用して利用できる「Dマークコンテンツ」が設けられ、学習効果が高まるように工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○すべての文字に、UDフォントを使用しており、ふりがなはゴシック体を使用している。難解な用語について、巻末に用語解説を設けている。</li> <li>○見開きページごとに学習課題が設けられている。導入部、展開部、終結部の形で構造化されたレイアウトとなっている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「導入の活動」で単元全体を貫く「探究課題」を立て、1 単位時間ごとに「学習課題」を解決し、思考ツールを使った「まとめの活動」で「探究課題」を解決する流れが構造化されている。</li> <li>○他分野と関連している資料や特設ページには、「分野関連マーク」が設定され、三分野の系統的な学習が展開できるように工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">中学社会 地理 地域にまなぶ</h1>	<div style="text-align: center;">17</div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開き1ページの始めに「学習課題」を掲げ、1単位時間の内容を整理しながらまとめる活動ができるように「確認コーナー」が設けられている。また、章・節の最後に「学習のまとめ」を設定し、基礎・基本の定着が図れるように工夫されている。</li> <li>○地図やグラフの扱い方等を学習する「地理の技」コーナーを設定し、個人やグループ学習を通じて、地理の学習で身に付けたい技能や表現力を養えるように配慮されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1時間の学習の最後に「表現」のコーナーを設定し、振り返りの学習として自分の言葉でまとめたり、対話活動をしたりすることで思考力・判断力・表現力の向上が図れるように工夫されている。</li> <li>○学習の流れに即して「読み解こう」や「Q」のコーナーが設けられ、(地図・グラフ・絵・図解等の)資料を読み取って考察することで、地理的な見方・考え方が鍛えられるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界地誌の導入ページで、州ごとの主題とともに「持続可能な開発目標」と関連する特徴的な地球的課題を扱い、現代や過去の社会的事象について、資料を的確に活用しながら考察できるように工夫されている。</li> <li>○三分野を通じて、地域社会での交流やボランティア活動に取り組む人々等の事例を積極的に取り上げ、社会の形成者としての自覚と参画への意思を養えるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○タイトルに学習内容を象徴する主題と学習事項を表す副題をおくとともに、生徒が課題意識を明確にすることができるように配慮している。「学習課題」から展開していく課題解決的な学習の流れに沿って教材や資料が掲載されている。</li> <li>○「確認/表現」コーナーでは、知識・理解や表現活動を行うことで1時間の学習を振り返り、生徒が他者と意見交流したり、自ら学び、自ら考える学習に取り組んだりすることにより、学びが深まるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭や折り込みページ・扉ページに資料や写真を大きく掲載することで、地図への興味・関心が高まるように工夫されている。</li> <li>○章・節の扉ページに「まなびリンク」を設けており、ウェブサイトから、学習に役立つさまざまな情報にアクセスできるように工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文字はUDフォントによる黒文字を使用している。難解な用語や補足説明の必要な箇所について、巻末に用語解説を設けている。</li> <li>○見開きページごとに学習課題が設けられている。本文と資料の関連を番号で示すことで、本文と資料が結びつきやすくなるよう工夫されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○章・節といった「内容のまとめり」ごとに、学習の見通しが端的に示されている。「学習のまとめと表現」では、学習の振り返りとして、自分の言葉で表現したり意見を交換したりする活動を行い、段階的に学習が深められるように配慮されている。</li> <li>○三分野の学びを関連づけるために「関連」マークが設定されており、系統的な学習が展開できるように工夫されている。</li> </ul>	

社会科（地理的分野）調査資料 1－3

書名 項目	<b>社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土</b>	4 6 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">帝 国</div>
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>            ○見開き 1 時間の内容が「学習課題」から本文、振り返りという展開で構成されている。本文には、全編にわたり地理的事象のしくみや概念等の基本的な知識が理解できるように、因果関係をふまえた上で、具体例を挙げながら記述されている。            ○資料の読み取りやグラフの作成等の力を伸ばすための「技能をみがく」コーナーが設けられ、「地理的な見方・考え方」を働かせる上で必要な基礎的な技能が習得できるように工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>            ○見開きの右下の「説明しよう」では、本時の学習内容を活用して思考を促し、自分なりに判断・表現する問いが設けられ、言語活動の充実により、思考・判断・表現力の育成ができるように工夫されている。            ○各章末には「章（節）の学習を振り返ろう」が配置され、章の学習で得た知識を生かして、地理的な見方・考え方を働かせつつ、単元を貫く問いに対して思考・判断・表現する課題が設けられている。         </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>            ○コラム「未来に向けて」が掲載され、持続可能な社会をつくるための人々の取組を示すことで、社会に対し生徒自身がどのように参画していくかを発展的に考えることができるよう工夫されている。            ○最終単元の「地域の在り方を考える」では、「持続可能な社会」を実現する例を提示し、より具体的に地域の在り方を構想し、社会の発展に寄与する態度を養えるように工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b>            ○「章（節）の学習を振り返ろう」では、「章（節）の問い」に対して「地理的な見方・考え方」を働かせて考えるステップを設ける等、課題解決的な学習ができるように工夫されている。            ○「確認しよう」「説明しよう」のコーナーで、学習内容を振り返り、習得した知識を活用して言語活動につなげる問いを設けることで、思考力・判断力・表現力が育成されるよう工夫されている。         </p>	
資 料	<p>           ○写真や地図、グラフ等が大きく見やすく提示され、地理への興味・関心が喚起されるように工夫されている。            ○ICT機器を活用して利用できる二次元コードが設けられ、学習効果が高まるように工夫されている。         </p>	
表記・表現	<p>           ○文字はUDフォントを使用している。用語解説や関連資料について、本文のページの側注欄に設けている。            ○見開きページごとに学習課題が設けられている。本文、資料、側注等が統一されたレイアウトで配置されている。         </p>	
総 括	<p>           ○章・節・各本文ページそれぞれの冒頭に「単元を貫く問い」が設けられており、学習の見通し・振り返り活動の基本的な流れが示され、見通しをもった学習活動につながるよう工夫されている。            ○三分野の学びを関連づけるために導入、単元を貫く問いの設定、学習の振り返りに一貫性をもたせ、スムーズな学習が展開できるように工夫されている。         </p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">中学社会 地理的分野</h1>	1 1 6 目 文
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開き1ページの始めに「学習課題」を明示し、本文や資料で学び、最後に「確認」コーナーが設定されており、習得した知識・技能を文章化・言語化できるように工夫されている。</li> <li>○「トライ」のコーナーを設定し、必要な情報の読み取り等の技能を高められるようにしている。また、「スキルUP」を設定し、生徒の発達の段階に応じて、必要な技能を系統立てて習得できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「アクティビティ」等のコーナーで、思考力・判断力・表現力の向上を図る場面を設定し、生徒が自分の言葉で表現できるような言語活動の充実を図ることができるように工夫されている。</li> <li>○地理的な見方・考え方を働かせる問いを「深めようコーナー」として設け、習得した知識を定着させ活用させることで、思考力・判断力・表現力等の向上を図ることができるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「日本の諸地域」の章末で「持続可能な開発目標」を示し、これまでの学習をその視点から振り返るとともに、「地域のあり方」では、地域の課題を見出し、地域の在り方を構想できるように工夫されている。</li> <li>○各章末において「ふりかえる」「アクティビティ」「チャレンジ地理」等で、主体的に学習に取り組む態度、自らの思考のプロセス等を客観的に捉える力、互いのよさを生かして協働する力等が培えるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「地理との出会い」で地理的な見方・考え方をつかみ、本文ページの「見方・考え方コーナー」で学習課題の解決に向けた手がかりとなる地理的な見方・考え方を働かせることができるように工夫されている。</li> <li>○「単元のふりかえり」や「アクティビティ」「チャレンジ地理」のコーナーを設け、学習内容の理解を深める主体的・対話的な活動ができるように工夫されている。主体的に考察できる今日的課題が取り上げられている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真を見て考えるクイズや現地の人の言葉を紹介する「声コーナー」等が設けられており、生徒の興味・関心が高まるように工夫されている。</li> <li>○ICT機器を活用して利用できる「教科書QRコンテンツ」が設けられ、学習効果が高まるように工夫されている。</li> </ul>	
表記・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文字はUDフォントを使用している。巻末に用語解説を設け、地理的用語を6種類に区分して解説している。</li> <li>○見開きページごとに学習課題を設けている。導入資料、学習課題、本文図版、確認等が統一されたレイアウトで配置されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学習課題」と「見方・考え方」が明確に示され、見通しをもった学習がすすめられるように工夫されている。単元の終わりには「学習のまとめ」が設けられ、基礎基本の定着と学習内容を深められるよう構成が工夫されている。</li> <li>○「連携コーナー」や章の導入ページで他分野と関連した資料を掲載することで、系統的な学習が展開できるように工夫されている。</li> </ul>	

## 社会科（地理的分野） 調査資料 2

### ○内容別ページ数

内容	東書	教出	帝国	日文
A 世界と日本の地域構成	27	19	24	22
(1) 地域構成	27	19	24	22
B 世界の様々な地域	107	101	102	95
(1) 世界各地の人々の生活と環境	21	19	19	20
(2) 世界の諸地域	86	82	83	75
C 日本の様々な地域	142	149	166	156
(1) 地域調査の手法	16	14	12	20
(2) 日本の地域的特色と地域区分	27	26	28	25
(3) 日本の諸地域	87	101	115	100
(4) 地域の在り方	12	8	11	11
索引	8	10	4	8
資料ページ	13	22	11	14
総ページ数※目録に記載されたページ数	302	308	310	298

※総ページ数には、中表紙や巻末資料も含まれているため合計と一致しない。

### ○地域の取り上げ方

#### B (2) 「世界の諸地域」で取り上げている主題

	東書	教出	帝国	日文
① アジア	急速な都市の成長と変化	経済の発展	急速な経済成長	人口や経済発展
② ヨーロッパ	国どうしの統合による変化	国々の結びつき	国どうしの結びつきの強まり	国境をこえた統合
③ アフリカ	国際的な支援からの自立	他地域からの支援の必要性	特定の産物に頼る経済	自立のための開発と国際協力
④ 北アメリカ	多くの人々を引き付ける地域	先進的で多様な産業	巨大な産業	世界に影響をあたえる産業
⑤ 南アメリカ	開発の進展と環境問題	自然破壊と都市の人口増加	農地や鉱山の開発	開発と環境保全
⑥ オセアニア	強まるアジアとの結びつき	他地域との関係の強化	他地域との関係	他文化が共生する社会

#### C (1) 「地域調査の手法」で取り上げている地域、主題、調査・まとめ

	東書	教出	帝国	日文
地域	高知市	名古屋市	東京都練馬区	京都市伏見区
主題	防災	自然災害	人口と農業	自然と防災・交通と観光
調査・まとめ	防災マップ、インターネット、文献資料、統計資料、空中写真、観光パンフレット、地形図、聞き取り、野外観察、イラストマップ、表、図、班による発表	地形図の読み取り・比較、現地の観察、聞き取り、文献資料、統計資料、博物館や資料館、イラストマップ、模造紙、班による発表	野外調査、聞き取り、地形図や地図、写真、文献資料・統計資料、新旧地形図、空中写真、航空写真、調査ノート、インターネット、グラフ、主題図、班による発表	空中写真、地形図、デジタル地図、新旧地形図、文献資料、インターネット、野外観察、統計資料、聞き取り、ハザードマップ、レポート、壁新聞、プレゼンテーションソフト、班による発表

C (3) 「日本の諸地域」の考察の仕方とページ数 \* ( ) はページ数

	東書	教出	帝国	日文
九州地方	自然環境 (12)	自然環境 (14)	自然環境 (16)	自然環境 (14)
中国・四国地方	交通や通信 (12)	人口や都市・村落 (14)	交通や通信 (16)	人口や都市・村落 (14)
近畿地方	人口や都市・村落 (12)	歴史的背景 (14)	環境保全 (16)	歴史的背景 (14)
中部地方	産業 (12)	産業 (14)	産業 (16)	産業 (14)
関東地方	交通や通信 (12)	交通や通信 (14)	人口や都市・村落 (18)	交通や通信 (14)
東北地方	生活・文化 (12)	生活・文化 (14)	生活・文化 (16)	持続可能な社会づくり (14)
北海道地方	自然環境 (12)	自然環境 (16)	自然環境 (16)	自然環境 (14)

C (4) 「地域の在り方」における地域的な課題の扱い方

	内容
東書	宮崎市を例に、「住み続けられるまちづくり」の在り方について考察する。
教出	多摩ニュータウンを例に、地域の課題を調査し、その解決方法について考える。
帝国	京都市を例に、地域の疑問を調査し、地域の課題や将来像を考える。
日文	京都市を例に、地域の課題をとらえ、自分たちにできることを考える。

○埼玉県地理的事象 ※県名のみの場合を除く

	内容
東書	過密地域（川口市）と過疎地域（東秩父村）の人口ピラミッド、関東平野に広がる畑作地の写真（三芳町）
教出	工場で働くベトナム人の写真（加須市）、首都圏外郭放水路の写真（春日部市）、国内最高気温を更新した熊谷市の写真、さいたま新都心の写真、京浜工業地帯と北関東工業地域の写真（本庄市）、ブルーベリー狩りを楽しむ観光客の写真（美里町）
帝国	日本最大級のショッピングセンターの写真（越谷市）、住宅地や畑が広がる関東平野の写真（深谷市）、首都圏外郭放水路の写真と地図（春日部市）、東京大都市圏の地価の比較のグラフ（所沢市）、政令指定都市（さいたま市）
日文	内陸型の工業地域の写真（川越市）、政令指定都市（さいたま市）、衛星都市の住宅地の写真（桶川市）、さいたま市（さいたま新都心）

○北方領土・竹島等の領土に関する記述

	北方	竹島	尖閣	東西南北端	内容
東書	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	<p>〔北方領土〕北海道東方の歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島は北方領土と呼ばれ、根室市などに属する日本固有の領土です。しかし、現在はロシアが不法に占拠しており、日本は抗議を続けています。</p> <p>〔竹島〕竹島は、島根県隠岐の島町に属し、隠岐諸島の北西、約150kmに位置する日本固有の領土です。しかし、韓国が不法に占拠しているため、日本は抗議を続けています。</p> <p>〔尖閣諸島〕尖閣諸島は、沖縄県石垣市に属する日本固有の領土で、中心である魚釣島は、石垣島の北、約170kmに位置します。日本が実効支配をしているため、領土問題はありますが、中国や台湾が領有権を主張しています。</p> <p>コラム「新しく広がった領土（西之島新島）」コラム「漁業資源にめぐまれた竹島」コラム「貴重な自然が残る北方領土」コラム「資源が期待される尖閣諸島」</p>
教出	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	<p>〔北方領土〕北海道の東に位置する歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島を北方領土と呼びます。北方領土は1945年の第二次世界大戦の終結後にソ連に占領されました。終戦時には北方領土には約17000人の日本人が生活していましたが、強制退去させられました。北方領土はソ連の解体後も現在に至るまでロシア連邦によって不法に占拠されています。日本政府は、ロシア連邦政府に対し、日本固有の領土である北方領土の返還を求め続けていますが、いまだに実現されていません。一方で、1992年に始まった北方領土へのビザなし交流など民間での友好的な結びつきは続いています。</p> <p>〔竹島〕竹島周辺では、江戸時代の初めから日本人が漁業を行ってきました。1905年に政府は、竹島を国際法に基づき島根県に編入し、日本固有の領土としました。1952年以降、韓国が竹島を自国の領土として主張し、現在まで不法に占拠し続けています。日本はこれに抗議を重ねるとともに、国際社会の場での話し合いを提案していますが、韓国は受け入れていません。</p> <p>〔尖閣諸島〕尖閣諸島は、アメリカ合衆国の施政の下にあった期間を除いて日本が領有し、有効に支配を続けてきました。しかし、1970年代から、周辺海域に埋蔵されているとされる資源をめぐり、中国が領有を主張し始めました。近年、中国船が尖閣諸島周辺の日本の領海や接続水域にたびたび侵入する事態が生じ、2012年、日本は島々の大半を国有化しました。</p> <p>コラム「日本の最南端をめぐるとの問題」年表 「北方領土に関する主なできごと」</p>
帝国	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	<p>〔北方領土〕北海道の北東部にある歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島は、北方領土とよばれ、北海道根室市などに属する日本固有の領土です。1855年に、日本とロシアの国境を択捉島と得撫島の間で確認してから、北方領土を他の国の領土とする条約が結ばれたことはありません。北方領土の近海は水産資源が豊かで、かつて多くの日本人がこれらの島に住んでいました。しかし、北大領土は1945年に、日本との条約を無視して一方的に侵攻してきたソビエト連邦に占領され、日本人は立ちのかわされました。ソビエト連邦は、サンフランシスコ平和条約に署名せず、現在までロシアが不正に占拠した状態となっています。日本は、北方領土の返還に向けてロシアと平和条約を結ぶため、交渉を続けています。</p> <p>〔竹島〕日本海にある竹島は、島根県隠岐の島町に属する日本固有の領土です。17世紀には現在の鳥取県の人々が漁を行っており、1905年に明治政府が島根県への編入を内閣で定めて、自国の領土とする考えを公式に示しました。しかし、サンフランシスコ平和条約で竹島に対する主張を退けられた韓国は、1952年に海洋への権利を唱えて一方的に公海の上に境界線を引き、竹島に海洋警察隊や灯台を置いて、不法に占拠しています。日本はこれに抗議し、国際司法裁判所での話し合いをたびたび呼びかけていますが、韓国が応じていません。</p> <p>〔尖閣諸島〕東シナ海にある尖閣諸島は、沖縄県石垣市に属する日本固有の領土です。明治政府が、ほかの国の支配が及んでいないことを慎重に確認したうえで、1895年に沖縄県への編入を内閣で定めて、自国の領土とする考えを公式に示しました。その後、一時は島で200人以上が暮らし、かつおぶし工場も造られました。サンフランシスコ平和条約でも、南西諸島の一部として日本の領土とされました。尖閣諸島をほかの国の領土とする条約が結ばれたことはなく、日本政府による管理も及んでいるため、ほかの国との間で解決すべき領有をめぐるとの問題はありません。尖閣諸島では、1960年代には、石油などの資源が周辺の海底にある可能性が注目され、1970年代に入ると、中国などが領有権を主張するようになりました。その後、日本は2012年に、尖閣諸島を平穏に維持、管理するために、その大半を国有地化しました。</p> <p>コラム「護岸工事によって守られた沖ノ島」コラム「漁業が盛んだった昔の竹島」</p>



<p>日文</p>	<p>○ 地図 写真</p>	<p>○ 地図 写真</p>	<p>○ 地図 写真</p>	<p>○ 地図 写真</p>	<p>[北方領土] 北方領土は、歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島からなる日本固有の領土です。面積は合計約 5000 km<sup>2</sup>もあり、福岡県や千葉県とほぼ同じ広さです。日本は 18 世紀ごろから本格的な開発を始め、1855 年の日露通好条約で、日本の領土であることが確認されました。周辺の海域は、こんぶやかになどの水産資源が豊富で、かつては多くの日本人が漁業をしながら生活していました。しかし、1945 年の第二次世界大戦後にソ連に占領され、ソ連解体後もロシアが不法に占拠しています。ソ連に占領されるときに、当時住んでいた日本人はふるさとを追われ、現在、北方領土に日本人は住んでいません。日本は、北方領土の返還をロシアに強く要求していますが、いまだに実現していません。</p> <p>[竹島] 竹島は、本州から約 200km 離れた日本海にある日本固有の領土です。竹島周辺は豊かな漁場で、17 世紀初めには日本人が漁業などに利用していました。1905 年には国際法に従って島根県に編入されました。ところが 1952 年から、韓国が、一方的に自国の領土であると主張して竹島を取り込み、警備隊員を常駐させたり、施設を作ったりして、不法に占拠しています。日本は、韓国に対して何度も厳重に抗議しています。</p> <p>[尖閣諸島を取り巻く情勢] 尖閣諸島は、石垣島から約 170km 離れた東シナ海にあります。1895 年に日本が自国の領土であることを宣言して、沖縄県に編入しました。また、サンフランシスコ平和条約でも日本の領土とされ、このことに周辺の国々からの反対はありませんでした。その後も、日本固有の領土として管理されてきており、尖閣諸島には領土問題は存在していません。ところが、東シナ海に石油が埋蔵されている可能性が指摘され、1970 年代になって、中国が尖閣諸島の領有権を主張するようになりました。最近では、中国の船が日本の領海にたびたび侵入してくるため、日本は、中国に厳重に抗議し、領土の保全に取り組んでいます。</p> <p>コラム「沖ノ島島を守るために」</p>
-----------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	---